

Musica Celeste 主催「チャールダーシュの女王」岡山公演の企画につきまして

Musica Celeste について

Musica Celeste（ムジカ・チェレステ）では、オペレッタやオペラ本公演を中心としたコンサート企画・運営や、音楽家派遣、音楽教室マネジメントを行っており、文化芸術の振興・発展に努めております。

「楽しさを創り、広めていく」を弊社の運営理念とし、貴重なお時間を割いて演奏会場にお越しくくださる皆様の心を豊かにできるような“七色の夢を描く演奏”を目標に、親しみやすく楽しいエンターテインメント・クラシック®（弊社登録商標）をご提供しております。

オペレッタとは

本団体で企画・制作する公演は、「オペレッタ」を扱うことが多くあります。オペレッタとは、オペラから派生し、貴族の楽しみだった「オペラ」を庶民にも楽しめるような形式にしたものです。生歌唱、生演奏だけでなく、台詞、ダンス、コミカルの要素も多く、オペラとミュージカルの間と言えるかもしれません。

日本ではまだ普及率が低いのが現状ですが、本団体で公演を企画・制作、また上演することで、日本でのオペレッタ普及に貢献できるものと自負しています。また、本団体制作のオペレッタ公演は、台詞だけでなく、歌詞も日本語で歌われ、どなたでも分かりやすく気軽に楽しみいただけます。また、海外のオペラのように、字幕を追う必要もありません。

オリジナル台本による日本語上演で分かりやすく、お子様から高齢の方まで幅広い年代に受け入れられるような易しい形式でありながらも、美しく味わいのある歌によって創りだされる、ムジカ・チェレステのステージをどうぞお楽しみください。

地方公演（倉敷公演）の意義

今回、2016年の初演から計5回に渡って公演をして参りました「チャールダーシュの女王」の魅力、オペレッタの楽しさを日本全国に広めたいと思っております。

前述の通り、オペレッタはオペラよりも日本での知名度が低く、また上演も大きなホールがある主要都市に限られる傾向があります。しかし、日本において、オペレッタを通じて芸術文化振興を促進するためには、地方における上演が必要不可欠であります。

そのため、本団体ではまず手始めとして、初演から大好評を頂いている「チャールダーシュの女王」を、本団体代表 佐藤智恵の出身である倉敷で上演をすべく企画を進めております。一部キャストに地元出身のアーティストを起用し、倉敷公演を一緒に盛り上げていく所存です。

また、本団体がただオペレッタを上演しに行くのではなく、地元の合唱団やダンスグループをはじめとする市民の皆さんに参加して頂き舞台にあがっていただくことで、地域密着型の公演を創り上げ、オペレッタの楽しさを一緒に体感して頂きたいと考えております。

歌って、踊って、お芝居をしてという、大変高度な技術を求められると思われるかもしれません。しかし、ムジカ・チェレステのオペレッタ公演は、メインキャスト以外では、簡単な台詞だけ、ダンスだけ、合唱だけでご参加いただくことも可能です。公演前のワークショップ、事前のオーディションなどもさせていただきます。

こうした事前の展開が、ロコミにより、当日の動員にも繋がって参ります。

また一時的な開催で終わるのではなく、定期的な事業としての展開を視野に入れており、大阪に吉本新喜劇、神戸に宝塚、岡山にオペレッタ！と言われるような、クラシックとエンターテインメント・ショーと喜劇を織り交ぜたオペレッタをできれば岡山の新しい文化として、地域振興と文化交流、経済効果を生み出すことができる企画として成長させていきたいと思っております。

オペレッタ「チャールダーシュの女王」について

オリジナル日本語訳台本による本団体の代表的なオペレッタ、エメリッヒ・カールマーン作曲「チャールダーシュの女王」は2016年初演から現在まで5回公演ほぼ満席御礼をたまわっている、大人気公演です。

【あらすじ】

二十世紀初頭のブダペスト。侯爵家の御曹司エドウィンは歌手のシルヴァに夢中で、そのアメリカ行きを阻もうと、公証人の前で八週間以内の結婚を約束します。そこへ軍人の従兄が、ウィーンの司令部への召喚命令書を持って現れ、同時に父侯爵が内緒に決めた、幼なじみのシュタージとの婚約をボニに伝えます。このことを知ったシルヴァは、裏切られたと思い、憤然として旅立ちます。

ほぼ八週間後、ウィーンの侯爵邸に、エドウィンの友人でもあるボニと夫妻を装って現れたシルヴァは、婚約したはずのふたりが必ずしも乗り気でないことに気づきます。果たして、ふた組のカップルの行方は？



2018年4月17日 豊洲シビックホール

公演映像 <https://youtu.be/JnpPQI85NIs>



【エメリッヒ・カールマーンについて】

エメリッヒ・カールマーン (Emmerich Kalman, 1882年10月24日~1953年10月30日) は、ハンガリー出身の作曲家。代表作「チャールダーシュの女王」など「オペレッタ」を中心に一時代を築きました。オペレッタからミュージカルへの橋渡しをしました。ただ、20世紀初頭、ドイツでは、ヒトラーのナチスが台頭。ユダヤ人であったカールマーンは迫害を受け、作品の上演も困難となりアメリカへの亡命を余儀なくされました。そんな状況の中、カールマーンが作曲したオペレッタには、愛や友情、平和への祈りが込められているのです。

岡山公演 企画詳細

【公演概要】

2018年10月13日(土) 16:30開演 会場：倉敷公民館

入場料 大人3000円 大学・高校生 1,500円 小・中学生1,000円

おokayama県民文化祭参加申請予定

【キャスト】(予定および候補者)

シルヴァ：佐藤智恵 ※岡山県出身

エドウィン：河野浩亮

ボニ：持木悠

シュタージ：中野亜維里

フェリ・バーチ：李昇哲

ピアノ：丸尾 晃久

合唱アンサンブル・ダンサー：地元市民より募集いたします。(年齢問わず10人程度)

父侯爵：岡山関係演奏家 or パフォーマー 募集中

公爵夫人：岡山関係役者 および 歌手

支配人：岡山関係役者 および 歌手

公証人：地元市民より募集いたします。

ローンズドルフ：地元市民より募集いたします。